

図書館利用者と石神井図書館長との懇談会

- | | | |
|---|------|--|
| 1 | 日時 | 平成30年11月1日（木） 10時～12時 |
| 2 | 場所 | 石神井図書館 2階 会議室 |
| 3 | 参加者 | 利用者 15名
図書館 3名（石神井図書館長、副館長2名） |
| 4 | テーマ | 「地域と共に歩む石神井図書館～地域図書館モデルの構築～」 |
| 5 | 配付資料 | (1) 石神井図書館の概要、事業イメージ、平成30年度事業体系図
(2) 教育要覧（図書館部分抜粋）、石神井図書館事業実施報告書
(3) 練馬区立図書館講座・講演会等事業実施一覧
(4) 平成29年度石神井図書館への主な意見・要望一覧
(5) 平成30年度石神井図書館に寄せられた利用者の声等について
(6) 「最近の図書館、地域と共に歩む図書館」
(パワーポイント資料)
(7) 図書館だより（第39号）、しゃくじい図書館通信第7号 |
| 6 | 次第 | (1) 石神井図書館長挨拶
(2) 図書館職員紹介
(3) 参加者自己紹介
(4) 図書館事業概要説明および事業報告
(5) アンケート等に見る石神井図書館への意見・要望など
(6) 意見交換（懇談）
①「地域と共に歩む石神井図書館～地域図書館モデルの構築～」
②その他
(7) その他 |

図書館利用者と石神井図書館長との懇談会 会議録

1 石神井図書館長挨拶

本日は大変お忙しい中、「利用者の皆さんと館長との懇談会」にご参加いただきましてありがとうございます。

10月27日から11月9日までが「秋の読書週間」に当たっており、この期間に合わせて各図書館で「利用者と館長との懇談会」を開催しております。

当館の懇談会は地域の施設長の方々などをお呼びする関係で平日開催とさせていただきました、ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。また、昨年と同様、当館で活動されているボランティアの方や近隣町会・自治会の方にも予めお呼びかけし、今日は大変多くの方にご参加をいただき感謝申し上げます。

私は石神井図書館長として3年目になります。以前は練馬区教育委員会事務局で、社会教育主事として地域と行政をつなぐコーディネーターという仕事に就いておりました。今回の懇談会は、これまで培った経験をもとに、地域図書館の役割について具体的な事業提

案を行い、皆さんと共に考えていく形で進めていきたいと思っています。

短い時間ではありますが、有意義な会となりますよう、よろしくお願いいたします。

2 図書館職員紹介

副館長 2 名、自己紹介

3 参加者自己紹介

図書館 所属団体などがあれば、簡単に活動紹介とか、図書館とのつながりなどを添えていただければと思います。また、区民の一般参加の方につきましては、差し支えがなければ、お住まいの町名だけでもご紹介くださるようお願いいたします。

利用者 白百合福祉作業所の施設長をやっております。主に知的障害者の方の支援を行っている施設です。図書館とは、災害時連携に向けた定期的な情報交換を行ったり、図書館の方が来て定期的にお話し会をしていただいています。また、「しらゆりまつり」という施設公開の行事でも地域の子供たち向けのお話し会をしていただいています。今後も障害の理解などの事業でお力添えをいただければと思っています。

利用者 石神井地域包括支援センターからまいりました。私どもは、65歳以上の高齢者の方を対象に、さまざまな支援ですとか、相談窓口として活動させていただいております。高齢化率も上がっている現在、図書館のような場所が憩いの場として、高齢者の楽しみの一つとして利用している方が多くいらっしゃると思います。地域に根差した施設として、これからもさまざまな情報を共有し、一緒に活動ができたと思っています。

利用者 石神井公園ふるさと文化館長をしております。もともとは、江戸東京博物館およびその分館のたてもの園で学芸員をやっておりました。現在は、日本大学芸術学部でいくつか学芸課程の教鞭をとっております。

こちらの図書館とは、私どものさまざまな展覧会に関しまして、関連図書を展示いただいたり、ホームページで相互に紹介するなど大いに助かっております。また、学芸員が何人かおりますが、展覧会をつくる際とか、本当によく利用させていただいております。私自身も、博物館に余りない本についてはこちらでお借りしてということもございます。

利用者 下石神井地区区民館長をしております。地区区民館では、一般の利用者の方に施設を利用していただいたり、高齢者対象の事業や児童対象の事業をしております。特に児童を対象として、地域の方に読み聞かせをしていただく事業を定期的に行っているところです。また、季節に応じて大規模な読み聞かせの行事もやっています。さらに、学童クラブでは、図書館から本を貸していただくなど、いろいろとご協力をいただいているところです。同じ地域の施設ですので、地域の皆さんのご意見などをお聞かせいただいて、私たちの事業の参考にさせていただければと思います。

利用者 練馬区消費生活センターからまいりました。当センターでは、消費生活相談

や啓発の事業を行っております。特に今年の消費生活展では、石神井図書館の方に来ていただきまして、子ども劇場の合間の読み聞かせをやっていただきました。また、図書館からはリサイクル本をいただいております、非常に有効活用させていただいております。

利用者 関町図書館または石神井図書館を利用していましたが、最近は上石神井駅に受取窓口ができましたので、実際に図書館に足を運ぶことが少なくなったと思います。インターネットで予約をして、窓口で受け取る、それで日常的な必用とか満足は得られているわけですが、ただ、図書館はそれだけではないだろうというふうに思うところがあり、今回、「地域図書館モデルの構築」というテーマであることに関心を抱き、参加させていただきました。

利用者 練馬区の地域文庫の読書サークル連絡会などに所属しています。それ以外にもいろいろと図書館の活動をしており、石神井図書館の布の絵本の会にも参加しております。練馬区の図書館の何かしらの力になればと思い、活動しております。

利用者 大泉図書館で夏目漱石を読む練馬読書会をしております。この場で図書館のビジョンのことについてお話をさせていただきます。これは10年の期間でつくったのですが、5年ごとに検討しようということでそれが今年になります。今年度もあと5か月しかないのに、まだ何にも手をつけていないのはけしからんと思うのです。私どもも協力しますので、早急に検討会をつくって進めていただきたく、10日に光が丘図書館長に申し上げに行きたいと考えております。

図書館 後ほど、ビジョンにあわせた私どもの事業計画等のご説明をする予定です。いまのご意見については、光が丘にお伝えいたします。

利用者 それから、会合についてお話しさせてください。利用者の会というのが光が丘図書館にはできていますが、あとの11館にはないので、各館にそのような会をつくることを提案します。27日に行われた大泉図書館の懇談会でもお話しをさせていただき、今年中に発足しようと思っております。ぜひ、この図書館も皆さんで検討してみたいはいかがでしょうか。

利用者 あとで地域図書館をテーマとした懇談の時間があるので、今日のところはよろしいのではないのでしょうか。

利用者 今日はこれで帰るのでそのことを申し上げたく、ご提案いたしました。

図書館 利用者会のことにつきましては、個別にお話しを伺います。

利用者 私は、地域と言っても、この練馬が地域だと思っているのです。大泉なら大泉だけ、そういうふうに限られた地域というのは狭いものです。団体でも半分以上の方が他のところから来ているわけですから、私は練馬全体を地域と思っています。この懇談会でも仲良く円満にやらせていただきたいと思っております。一つよろしくお願いします。これから読書会の会合があり、途中で中座させてもらうのは失礼ですがよろしく願いいたします。

図書館 どうもありがとうございました。

利用者 町会長をしております。同じ地元ですので、ふるさと文化館さんや白百合さ

んと一緒に、地元の発展とまでいくかどうか分かりませんが、声を届けて、協力体制が敷ければいいかと思い、今日は参加させていただきました。

図書館

ありがとうございます。

利用者

石神井児童館の児童室で、わんぱく文庫の代表をしております。また、光和小の図書ボランティアでも世話人をさせていただいております。今日はよろしくお願いします。

図書館

よろしくお願いします。

利用者

石神井図書館ブックスタートの会からきました。こちらで10年間ほどスタッフをさせていただいております。そのほかには、学校図書館の支援員を以前3年ほどやっておりました。あと、ライフワークとしては20年ほど小学校で読み聞かせをしております。よろしくお願いします。

利用者

ねりまお話し会の会からまいりました。お話し会が始まって35年たちました。いろいろと新しい問題も出てきているところで、先日、石神井図書館でお話し会を開いてくれました。図書館員の方たちとねりまお話し会の会が何人か来てくれ、これからどうやって一緒につないでいくかという課題が少し見えて、先日の会はとても有意義だったと思います。これからも、どう進んでいくかというところでいろいろとご相談させていただけたらと思っています。石神井図書館には、昔話とか創作とか、いろいろありますが、子供たちにお話しをするということをやらせていただいております。

利用者

だいぶ前ですが、図書館専門員として10年くらい石神井図書館と大泉図書館に勤めておりました。いま石神井図書館で読み聞かせをやらせていただいています、ご縁が深いなと思っています。ねりまお話し会の会もよく知っていますし、ねりま子どもと本ネットワークのメンバーとして小学校のラリーや何かで忙しくしております。読み聞かせをやっていると、だんだん幼い子が多くなりまして、これをどうにか、もう少し小学生くらいまで集められないかなと、それが今の私の課題です。よろしくお願いします。

利用者

石神井図書館で赤ちゃんお話し会の活動をさせていただいています。

赤ちゃんお話し会は、月に第1、第3の金曜日の午前中に30分、この場所で開催させていただいています。赤ちゃんお話し会というだけあって、0、1、2歳位が対象と思っているのですが、いらっしゃるのは0歳の親子さんが多いのが現状です。これからもやりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

利用者

布の絵本の会こぶしの代表を務めております。

図書館所蔵の布の絵本の補修や新しい絵本の制作を仕事としております。ちくちく縫うのが大好きな方々の集まりで、仲良く、親睦という面と、それから自己実現というか、達成感を楽しむように、皆さんで仲良く制作させていただいております。よろしくお願いいたします。

4 図書館事業概要説明および事業報告

(1) 石神井図書館の概要、事業イメージ、平成30年度事業体系図

ア 石神井図書館の目標

- ・区民の生涯学習を支援し地域と共に歩む図書館
- ・図書館を利用していない区民または困難な人々に対する図書サービスの実施
- ・研修館として区立図書館全体のスキル向上を図る

イ 概要

- ・開館時間、職員運営体制、来館者数

ウ 事業イメージ、事業体系図

- ・地域図書館として、町会、NPO、民間企業、地域施設、学校等と連携して、図書館ビジョンの4つの施策の柱に沿った形での事業計画と事業運営。

(2) 教育要覧（図書館部分抜粋）、石神井図書館事業実施報告書

ア 図書館の利用促進

- ・朗読会、講座・講演会、テーマ展示

イ 子どもの読書活動推進事業

- ・ブックスタート、本の探検ラリー、よみきかせ会、学校図書館支援等

ウ 区民や地域との協働

- ・ボランティアとの協働事業

エ 石神井図書館地域支援事業報告

(3) 練馬区立図書館講座・講演会等事業実施一覧

区立図書館各館で実施している講座・講演会等を対象別に色分けした一覧表を用いて実施状況を説明。

5 アンケート等に見る石神井図書館への意見・要望など

(1) 平成29年度に開催した懇談会およびアンケート、平成29年度の利用者アンケートでいただいた意見・要望に対する取組み状況について説明。

(2) 平成30年度石神井図書館に寄せられた利用者の声等について説明。

利用者 さまざまな事業を各図書館ですごくやっていると思いますが、ときには、余り本には関係ないのではないかなと思うようなものもあり、練馬区の予算でそんなにできるのかなと思うことがあります。私は児童書に関係している仕事をしており、いつも児童室を利用させていただいているので、今、館長も一番大事なのは蔵書の充実とレファレンスとおっしゃっていたので、そういうお金があるのだったら、そちらを一番に考えていただきたいと思います。どうしてそんなに練馬区の図書館ではたくさんの事業をやらなくてはいけないのか疑問なのですが。

図書館 後半の部分でお話しする予定でしたが、地域には、児童館・学童クラブ・学校応援団などがあり、遊びとか仲間づくりに関するいろいろな事業をやっています。図書館は社会教育施設に位置づけられていますので、子供に関して言えば、健全な成長発達に関わる課題に対して、それを捉えた事業あるいは体験の機会を提供することが必要だと考えています。

ただ単に、図書館に来て遊ばせるとか、ゲームをやらせるとか、そういうも

のではなく、社会教育施設の使命として、社会教育は学校教育と共に教育を掌る両輪と考えれば、学校教育を補完するのが社会教育で、社会教育を補完するのは学校教育であり、子供たちはその相互の教育領域の中で成長、発達していくのだと考えています。

例えば、新しい学習指導要領で課題となっているプログラミング教育や地域参画としてのボランティア意識の啓発や具体的な体験などの課題を捉えての事業は、図書館で当然取り組むべきものであると思いますし、さらに調べ学習ということで図書館資料を活用して深めてもらいたいとも考えています。

利用者 子供のイベントだけではなくて、大人の方のイベントもとても多いのでお金があるのかと心配になります。また、人材と言いますか、皆さんが忙しくなり過ぎていて、例えば、本に詳しい人が少ないというか、本のことにもっと詳しくあってほしいのに、本に詳しくなくて、イベントの準備などに押されてしまっているのではないかと心配です。

図書館 石神井図書館は、資料でご説明したとおり、大人対象の事業は全体の割合からすると少なく、予算もそう多くはありません。社会的・地域的課題を捉えた企画や、子供対象の自由研究応援講座などでは、民間企業や団体の社会貢献事業<CSR (Corporate Social Responsibility)>を活用するなどの工夫をして、予算がなくても充実した講座を提供できるようにしています。それら事業の企画運営については、チームを作って対応していますし、レファレンスや蔵書の充実などがおろそかになるようなことはありません。

利用者 学校への支援ですけれども、こちらの図書館だと管理員さんを派遣ということで、支援員さんを直接配置している図書館とは違うと思うのですが、それゆえに図書館と管理員さんの間のつながりが薄いのではないかと感じています。管理員さんは、多分、頼んだことに関してはいろいろとしてくださっていると思うのですが、もう少し管理員さんに対して、こういうサービスをもっと利用されてはどうかとか、そういうふうな提案というのはされているのでしょうか。

図書館 本来は、学校司書という方たちがきちんと配置されて、学校図書館を運営されるべきだと思いますが、司書資格を持った教員の方が配置されたとしても、実際の教務が中心になりますので、図書館支援員や管理員を教育委員会が配置しています。

当館としては、児童担当の者が学校訪問をしたり、学校でブックトークなどに出向いたときなどに情報交換などを行っています。

利用者 わかりました。図書館からの団体貸出はありますが、それ以外でももう少しいろいろ関わっていただけたらと思うのでよろしくお願いします。

6 意見交換(懇談)

(1)「テーマ：地域と共に歩む石神井図書館～地域図書館モデルの構築～」

ア 最近整備された主な図書館の紹介（施設内容、運営方針、特徴など）

イ 生涯読書社会において地域図書館に求められる役割と効果

- ・「子供にとって大切な読書活動」について
山形県鶴岡市の朝陽第一小学校の取り組み、新学習指導要領の基本的考え方「主体的、対話的で深い学び」を交えて説明。
- ・「成人の読書への関りと言語力」について
元国立教育政策研究所の総括研究官、立田先生の話を紹介。普段から本について高い関心を持つ人ほど読書量は多く、読書後に何らかの活動につながる傾向が高いという結果が出ている。
- ・「健康寿命と読書」について説明
NHKが開発した人工知能「A I ひろしくん」が、65歳以上延べ41万人の生活習慣データを10年以上にわたり追跡調査をしたところ、健康寿命と平均寿命の差を短くするキーワードが「本や雑誌を読む」という結果が出た。一般的に考えると、よく運動することが健康要素の中で、一番と考えてしまうのだが、それ以上に「本や雑誌を読む」ことが、健康寿命に非常に大きな要素につながっていた。

ウ 地域図書館の役割に関するキーワードと、検討事業の提案

- ・青少年の自立支援…調べる学習・生きる力・地域の教育力
【検討事業案】生涯学習パスポート型読書ノート（スタンプラリー付）の作成
- ・地域活動支援…郷土意識の醸成・人材の育成・学習（交流）の場と機会の提供
【検討事業案】石神井の郷土を育む手作り紙芝居「仮 ふるさと紙芝居」の制作
- ・高齢者自立支援…読書支援・地域の見守り・地域参画
【検討事業案】①訪問-宅配-見守り型図書サービス「仮 地域ふれあい図書事業」
②高齢者施設等への「“Books on Bikes” 事業」

【懇談】

図書館

事業案については、この懇談会で意見交換するための素材としてまとめた館長案ですので、区として事業決定しているものではないことを重ねて申し上げます。

青少年自立支援としての生涯学習パスポート型読書ノートについてご説明します。今日ご出席の皆さんの施設にも図書室があると思います。子供たちはそこで読書をする、また、私どもが施設に行ってお話し会をする、そのような形で読書活動を推進していくというのも非常に大事かと思います。そのきっかけとなる仕組みとして、読書ノートがあると思いますが、私は社会教育主事をしていたので、どちらかというと生涯学習パスポートに深い関心があります。この生涯学習パスポートは、実際に自分が学んだ記録とか、活動した記録を記載していくものなのですが、それに合わせて読書の記録もつけていく。読書と活動を連携させて、自分自身を整理して課題を見つけられるような、そういったノートの方が生涯学習支援としては有効ではないかと考え、ご提案させていただきました。

次の地域活動支援の事業例として提案した石神井の郷土を育む手作り紙芝居、仮称ですが「ふるさと紙芝居」の制作に関してです。

実際に、今年から始動しているプロジェクトですが、石神井公園ふるさと文化館が発行した「ねりまの昔ばなし」という本があります。その中に、石神井地域の昔話、伝説などがありますので、それを紙芝居として区民の方につくっていただいて、それを学校とか幼稚園などで上演することで、郷土意識を高めていくことを考えています。調べてみると、実際に横浜市港北区でそのような紙芝居づくりを行っていて、年間に20作品も制作していることがわかりました。

最後に、高齢者自立支援に関してです。

仮称「地域ふれあい図書事業」というふうに申し上げますが、一つ目に訪問、宅配、見守り型図書サービスです。本区も高齢者人口の割合が高く、要介護高齢者も増えております。加えて、介護保険の要介護認定にかからない閉じこもりの高齢者、ひとり暮らしの高齢者、外出支援が必要な高齢者も増えていきます。

昔のように移動図書館があれば別ですが、練馬区には図書館が12館あるとは言っても、足の不自由な方など、図書館まで赴くことができません。

一方で、ひとり暮らしで亡くなられる方も多くなっていますので、福祉分野では高齢者見守り事業協定といって、新聞販売店や郵便局、町会・自治会などが協定を結び、何かあったら福祉事務所に通報するという仕組みができています。この見守りネットワークに図書館も参入して、図書館の本のブックリストなどを渡したりする中で、声かけをして見守りをしていく、これも図書館としての新しい役割ではないかと考えています。

二つ目が、高齢施設等への“Books on Bikes”事業です。

これは、アメリカのシアトルなどで、取り組みが盛んなのですが、移動図書館がなくなった現在、自転車に付けたトレーラーに50冊程の本を積み、地域に出向いていき、そこで本の貸し出しやお話し会、図書館のPRなどをするということをやってみてはどうかと考えています。

図書館

それでは、今の三つの具体的な事業提案の一つ目が青少年の自立支援ということで、青少年の自立支援のための事業として、石神井地域の生涯学習スポットのスタンプラリーのできる、仮称「しゃくまなび読書活動ノート」の提案がありました。

この事業をヒントに、子供たちの読書活動を推進する地域図書館の役割について、皆さんのご意見をいただきたいと思います。

利用者

調べ学習ということですが、もう少し、調べ学習のやり方とかについても指導できるような図書館の方がいて、何となく回るだけとか、何となく書だけみたいない感じにならないように、中身ややり方などをもう少し研究していただいて、小学生にきちんと伝えられるようにしたらと思います。

今の小学校の子どもたちの宿題の仕方などを見ると、「〇〇について調べてきてください」という宿題が週末に出ますが、インターネットで調べてみるというような形で提示されているので、図書館の本を使って調べる発想が子どもたちの中でどんどんなくなっていると思います。また、家庭だけではな

くて、学校内で調べ物をするときでも、パソコンルームに行きましょうというような方向が多いように感じますので、そのあたりの対策も深めて行ってほしいと思います。

図書館 調べる学習については、職員自体が、その方法、ノウハウを知っておくべきだと考えています。子供対象の講座においてはパスファインダーを作って、一つのテーマに対して、こういう調べ方、こういう本を読んだらいいというものをお渡しすることがあります。生涯学習パスポートの場合は、地域に出て調べてみることを想定していますので、例えば消費生活について調べたいということであれば、実際に消費生活センターに行ってお話を聞いたのであれば、学びの記録として残し、課題整理に役立つのではないかと思います。

また、今後の大きな課題ではありますが、図書館ではここまで調べられる、地域ではこんなことも調べられるといったことができる態勢があればベストだと思っています。

利用者 こんな本があるとか、こんなところに行ったらいいというだけのヒントでは、なかなか学習が深まりにくいのではないのでしょうか。全部手とり足とり教えることとは違うのかもしれませんが、ヒントだけでは足りないと思います。そのあたりをもっと深く考えて、進めていただけるとありがたいです。

図書館 自ら考え行動し、解決するということが生きる力につながるので、いろいろヒントを与えるわけではなく、自分で考える力も養わなければいけない部分もあります。そのバランスを考えながら指導するということが非常に大事だと思っています。

図書館 ほかの方はよろしいでしょうか。

利用者 学校でのおはなし会は、かなりの学校で行っていますが、まだ行っていない学校もあるのではないかと思います。回数が多くなるほど、子どもたちの物語に対する興味が湧き、もっと聞きたくなるということで、聞く力が強くなると共にお話しもだんだん高度になっていく様子を見てきました。そこで、私たちの会でも、どうアピールしていくか検討し、それぞれが個々に動いている状況です。学校と図書館とが結びつくのはなかなか厳しいのでしょうか。

図書館 現在、学校支援という形で、ブックトークや本の探検ラリーなど学校に出向いて行っています。図書館と学校との関係を密にすることはとても大切なことだと思っています。所管する小学校がいくつかありますが、その子供たちが石神井図書館に足を運んでくれるかということではなく、地域の問題もあるので近隣の石神井小学校の子供たちは大勢足を運んでくれますが、例えば光和小学校や上石神井北小学校などは遠いので利用は少ないです。

利用者 先生も授業もしやすくなるとおっしゃってくださっています。今はスマートフォンなどがどんどん発展しているので、聞かない子供たちがいっぱいいるので、おはなし会は大事なかなと思っています。お話し会の人たちもこれから入ってくる若い人たちの教育というのが課題だと思っています。

図書館で協力できることがあれば、先ほども言ったように相談させていただければと思っています。

図書館 今、子どもに対してのお話が出ていますが、高学年、中学・高校になればなるほど本を読まなくなると言われています。先ほど事例を紹介しましたが、小さいころから本を読む習慣をつけ、楽しさ、発見、それにつながる対話なりというものができていけば、読書力がどんどんついていく。それが生涯読書を通して、最終的には健康寿命につながるということになります。

利用者 大変よいことをお聴きしました。

図書館 それが言いたかったのですが、そのためにはどうしたらいいかということです。生涯学習パスポート型読書ノートにおいては、スタンプラリー形式で地域とのつながりができるようになります。ここにあるのは「京まなび」という京都市教育委員会がつくったもので、一般対象の生涯学習パスポートです。この中に学習記録というのがあります。地域の生涯学習スポットに行って何を学んだのかを整理することができます。京都という地域にあるお寺とか、そのような生涯学習スポットが1ブロックで「100まなび」ずつ紹介されていて、全部で「400まなび」できるようになっています。「100まなび」すると教育委員会が賞を出して、「400まなび」すると何かもらえるというような、これは大人のスタンプラリーみたいなものですが、京都では10年前からやっています。

石神井地域に照らして考えれば、子供に対しては史跡だとか、学習スポットとして地区区民館や消費者生活センター、人権関係の勉強をするのであれば男女共同参画センター、ボランティア活動だと福祉施設や保育園とかがあります。そういったところを生涯学習スポットとして、スタンプラリーをすることで、そこでの経験をもとにさらに勉強したい深めたいというときに、図書館とか図書室を利用する。このような関係性を築くツールになればよいと考えています。具体化する上では、今日お集まりの皆さんと連携してできることではないかと考えて、この提案をさせていただいた次第です。

図書館 ほかの方はよろしいでしょうか。

利用者 何度もすみません。子供の読書ということでお話しがあって、光和小学校には、石神井図書館から管理員さんが行っているということですが。

図書館 石神井図書館の管轄ではありますが、管理員を派遣しているわけではありません。

利用者 図書館に来るような子供は放っておいてもいいとは思いますが、来ない子供のところに行って、学校図書館に手渡しをする人が毎日いて、それぞれの子供に合った本を手渡せば、本を読まない子はいなくなるというふうに、3年間ほど支援員をやっていて実感いたしました。

ただ、練馬区では、支援員ですとか管理員という制度だと、週に2日とか3日くらいしか小学校にそういう手渡しできるような人がいないようなので、そのために子供が読書に親しめないのではないのかと思っています。

石神井図書館の話題ではないとは思いますが、もし教育委員会に言っていただければ、図書館とつながる話ですのでお願いします。本当に本を読まないような子供ばかりだと大人はと思いますが、わんぱくな子でも、

野球の好きな子には野球の物語だったりありますし、釣りの好きな子には小学生向けの釣りの本だったりを紹介すると、高度な本でもすごく食いついて読んで、読書好き、図書館好きな子供になります。学校図書館にはないけれども、近くの図書館だともう少し大人の本で、釣りの詳しい本があるよとか、野球選手の本がここにはこれしかないけれども、近くの図書館に行けばいっぱいあるよという、その子供は足を運びます。もちろん野球選手の本も借りますが、それをきっかけにしてもっといろいろな本にめぐり合って、図書館に行くようになると聞いています。ぜひ、子供の様子を見て、その子にふさわしい本を橋渡しができる方が小学校にいればいいと願っています。

すみません、石神井の会議とは関係ないのかもしれませんが。

図書館 学校図書館の役割としては当然のことだと思いますし、子供に一番身近な学校の先生や親御さんが子供が持っている興味関心を本につなげていく必要もあると思います。

利用者 この石神井図書館の課題に、蔵書の充実とレファレンス機能の充実とあるのですが、私は読み聞かせをやるのに、絵本の実物を見て、絵とかいろいろなものを見ながら、子供にどれがいいか考えて選ぶのですが、メインとなる絵本がすごく少ないような気がします。すぐに手に取って見られないのです。こういう本があるのだなというので、予約はできるのですが、実物を見て選ぶとなったら、実物のいい本がなかなか見つからないのですがその点はいかがでしょうか。

図書館 絵本の蔵書が少ないとは思っておりませんが、貸出中のものは人気があるから貸出になっているのわけで副本を増やす事はできませんし、仕方がない部分もあるかと思います。

利用者 石神井図書館の本というのは、割と予約で抜かれるのが早いとか、そういうことはあるのですか。光が丘図書館に行くと、割と手に取って見られるようですが。

図書館 特にそういうことはないと思います。そのようなご意見については、最後の時間でお話ししようと思っておりましたが。いずれにしてもご要望の本があれば、早めに予約するなどしてご用意するほかないかと思います。石神井図書館に蔵書がなければ、ご要望をいただいて、うちの児童担当で選書会議を行い、必要であれば購入することになるかと思います。

図書館 それでは、次の事業提案の二つ目、地域活動支援についてです。石神井地域に伝わる昔話や伝説を紙芝居にする、仮称「ふるさと紙芝居」という提案事業についてご意見をお願いします。本日、石神井図書館で活動されていますボランティアの方も出席されていますので、ご意見などがありましたら、ぜひお願いしたいと思います。

利用者 昨年度の懇談会で、図書館にコーディネート的な働きをしていただきたいたいと要望いたしました。それに関して、私ども布の絵本の会も3年目になりました。福祉で使うための布絵本をつくってほしいという要望をいただきました。

結果的には図書館からの依頼という形になりまして、来年度、制作をさせていただくつもりでおります。大変光栄です。ありがとうございます。

あと、ブックスタートの会、お話しの会にも所属していらっしゃる方が結構いらっしゃいまして、その方々から希望があって、「おおきなかぶ」を、立体布絵本みたいな形で今年、実験的につくることにいたしました。それで、自然にそういう結びつきを生み出すようなテーマとか作品があるということに気がつきました。要するに、私どももコーディネートをお願いするだけでなく、感度を常に鋭敏にしておく必要があると思っています。ですから、今日のいろいろな事業に関して、地域支援などは全く賛成です。ただ、図書館というのは、お役所なので限界があるので、私どもが地域支援について鋭敏な感覚を持ち続けているということが大切なのではないかと感じています。

図書館

布の絵本の会も活動が盛んで、さらなる取り組みをされていることに感心いたしました。先ほどご提案した「ふるさと紙芝居」ですが、以前、布の絵本の大家である渡辺順子先生とお会いして、非常に精巧な布の絵本を見せてもらいました。その時に、例えば練馬の昔話などを布の絵本でもできるのではないかと思ったのですが、とりあえずは紙芝居の方が作りやすいのではと思い、紙芝居にさせていただきました。

もし、布の絵本の会で「ふるさと布の絵本」というものをつくるなどのお話があれば、もちろん協力させていただきたい。そんなご意見をいただければと思っています。ふるさと紙芝居の取り組みについて、この辺は難しいのではないかとか、こうしたらいいのではないかとというところがありましたら、ご意見いただければと思います。

この企画、実際の取り組みは来年からを考えておりますが、今年度から一部スタートしており、近々、講演会をやろうと考えております。また、今回のふるさと紙芝居については、将来的にはサークル活動の中でどんどん作品を増やしていけたらというふうに考えています。横浜市港北区にある図書館に同様の取り組み例がありますが、年間20作品制作するなど、非常に活動が盛んで地域づくりに繋がっているということです。

利用者

講座を図書館でなさって、参加したいという人を募集するということですか。

図書館

そうです。声かけ、募集はこちらでやります。ただ、なかなか紙芝居を指導してくださる先生が見当たらず、地域にあるちひろ美術館・東京にもご相談したのですが難しいということで、できれば練馬区で紙芝居で活躍されている方がいればというふうに思っているところです。

利用者

昔話だから創作ではないと思うのですが、元ネタというのは、既にでき上がっているというか、お話が何話かあるというようなイメージなのですか。

図書館

教育委員会で以前、練馬の昔話といった冊子を何冊か出してまして、現在の石神井公園ふるさと文化館でも発行しています。

利用者

何話ぐらい入っているのですか。

図書館

当館の地域資料コーナーにあります。20話くらいあると思います。

利用者

みんな練馬区で、石神井地域のものですか。

図書館 石神井地域だけではなく練馬区全体です。石神井図書館から発信して、練馬全体に広がっていくことを想定しています。

図書館 それでは、次に行きたいと思います。事業提案の三つ目です。高齢者の自立支援ということで、宅配サービスとか、自転車を使った「Books on Bikes事業」といった、仮称「地域ふれあい図書事業」の提案についてです。この点については、いかがでしょうか。

利用者 今、おひとり暮らしですとか、高齢者のみの世帯が大変、増えていまして、そのような高齢者の見守りが重要視されています。例えば、配食サービスで弁当をお届けした時に、同時に安否確認とかもするような事業も結構増えていきます。地域包括支援センターでも見守り訪問支援といって、独居の方と高齢者の世帯を1件1件回って、最近お困りごとがないかとかを伺う事業も4月から開始されています。引きこもりがちな高齢者の方は、こういう本の宅配見守り型のサービスがあるというのを知るところも課題かなと思うのですが、そういったご案内など何かお決まりになっているのでしょうか。

図書館 このサービスについては、実際に行われているわけではなく、図書館としてこのようなこともできるのではないかという事業です。実際に行うとすれば、見守り訪問支援の方に事業案内やブックリストを持って行っていただくことが想定されます。現行のサービスには要介護高齢者の方への郵送サービスがありますので、その仕組みを使えば、対象となる高齢者の方に郵送で本が届けられます。どんな本を読みたいか、読んだらいいのかということは、パソコンで検索することができますが、高齢者にはそれができないところがありますので、お勧めの本などのブックリストを作成して、訪問支援の方がお届けに上がるといったシステムならば、簡単にはできるのではないかと考えています。

利用者 ありがとうございます。私たちも、もし可能であれば連携させていただいて、ご案内のチラシですとかあれば連携させていただきたいと思っています。よろしくお願いします。

図書館 福祉サイドから、教育委員会にそういう提案が来ると非常にやりやすいのでよろしくお願いします。

利用者 私も3つの提案事業はなかなかおもしろいと思うのですが、それに対する職員の体制がすごく大変だと思うのです。先ほどもお話があったように、今でもいろいろなサービスの関係など、事業がたくさん行われている。それをこなすのも、職員がかなり四苦八苦しなうかというか、仕事の合間を見ながらみんなで企画・運営していくという形になっているかと思うのですが、さらに、コーディネートまでしなければいけないということで、仕事量がどんどん増えることになります。そのコーディネートが一番難しいというか、職員の技量が試されるものだと思います。そういう点で大丈夫なのか心配です。

図書館 体制の問題は当然考えなければいけないと思っています。私は、これまで社会教育主事として地域のコーディネートを職務としてきましたので、さほど

難しくはないのですが、私がいなくなったときにでき得るかは大きな問題です。増員はできませんが、そのような企画とかコーディネートを得意とする職員を配置することは当然必要となると思います。

それから、一番難しいのが見守り事業だと思います。できれば見守り要員として図書館職員も入るのが理想です。具体的には、ケアプラン等で宅配サービスが必要な方がいた場合、図書館員が一度訪問してレファレンスを行い、実際の宅配は福祉の方とか、ボランティアの方が行くというような形。そういったことができればよいと考えています。実際にそのような形でやっているところもあります。もちろん、事業の場合は、必要な人員を確保して、その体制の中で予算等の確保も含めてやらなければいけない。今日は、このような事業が考えられるといった段階ですが、それを実際やるには、もう少し深く検討し、整理する必要があると考えています。

利用者 せっかく、これだけの事業を提案するのだったら、練馬区の図書館全域でやらなければ意味がないというか、石神井だけがやるということではないかと思いますので、ぜひ上にも挙げていただければと思います。

利用者 こんなことを聞いていいのかどうかわかりませんが、ほとんど指定管理という状況になってきている中で、今、お話があったことなどの方向に進んでいくと、図書館員の確保とかも必要になってくるだろうと思います。その辺は、私たちとしても心していかなければいけない問題ではないかと思っています。

図書館 指定管理についてのお話がありましたが、石神井図書館については、区の計画の中では指定管理は当面、「検討」ということになっています。まだ検討中ということですので、どうなるかはわかりません。

ただ、ボランティアをやっている方については、指定管理になったとしても、その対応に変わりはないと考えています。

利用者 私たちは、見守っているという感じで大丈夫なのでしょうか。

図書館 今までどおりの活動をしていただければと思っております。

(2) その他

【懇談】

図書館 地域図書館モデルとなるような事業の取り組みについて、三つの事業案を通して、皆さんに考えていただきました。改善点とか困難な点とか、今後さらに検討されて、よりよい事業として実現できるようにしてまいりたいと思っています。

なお、冒頭に申し上げましたように、練馬区立図書館全体に関わるような質問につきましては、本日はお答えできませんが、ご質問の内容は光が丘図書館に伝え、調整いたしまして、ホームページ上で後日、回答させていただく予定です。

では、残り時間はあとわずかですが、日ごろの図書館サービスに対するご意見・ご要望などがございましたらば、お願いしたいと思います。

利用者 会からのお願いですが、メンバー募集の案内を館内の掲示板で、来館者がよ

く見えるようなところをお願いできたらありがたいと思っております。よろしく願いいたします。

図書館 当館での掲示は目的・内容別、団体別に分けて掲示しております。地域活動を紹介する掲示板にて掲示をさせていただきます。

利用者 ありがとうございます。

利用者 先ほど資料の充実の話を出しましたが、児童書だけでなく青少年コーナーもとても寂しいのですが青少年関係の本は少ないのですか。

図書館 一般書や児童書に比べれば、さほど多くはありません。

利用者 もう少し充実できないのですか。

図書館 当館では、YAコーナーとして一般書架の一面に設けていますがそれほど冊数は多くありません。青少年の利用も少ないこともありますが、職業体験にきた中学生におススメ本の紹介をPOPにして展示したりと工夫はしていますが、さらに努力してみます。

利用者 私も最初、YAコーナーの場所がわからなかったくらいです。大人の場所みたいな感じのところにある。南田中図書館などは2階の児童室の隣にあり、その方がわかりやすいです。小学生の高学年もYAの本を手にとれることが多いと思うので、もしあれだけ狭いスペースだったら、むしろ児童室の中にあつた方がいいのではないかと思います。今の場所というのであれば、もう少し別に囲うとかという工夫をぜひ、してほしい。

図書館 レイアウト変更につきましては、物理的になかなか厳しいところがありますので、全体的なレイアウト変更の中で検討させていただきます。

図書館 それでは、まだご意見をいただいていない方から何かありましたら、お願いしたいと思います。

利用者 せっかくですので、今日のお話を聞いて、館長が社会教育主事でおられたということで、私は非常に期待できるというか、三つの提案は非常に興味深く聴かせていただきました。

その上での感想として、いろいろな事業の話がありましたが、図書館は全世代の人を対象にしています。特に子供を対象とする児童サービスは忘れ去られることはないのですが、どうしても勤労者であるとか、その前段としてのヤングアダルト、ティーンズの世代に対するサービスが弱くなるという部分があると思います。その辺を意識していただきたいと思います。

それから、行事のことについて、先ほども本との関わりという話がありましたが、私も図書館や資料との関わり、それから図書館員の専門性との関わりの中で、なぜ図書館がこれをやるのかというところを、限られた資源の中ですが考えていただきたいと思いました。また、図書館は資料を収集して提供するというのが大前提であって、その上にいろいろな事業というのが考えられるわけですから、地域の図書館ということ考えたとき、その独自性といえば、地域の情報と資料であると思います。

石神井の地域についての資料や情報については、この図書館が責任を持つ立場にあると思うので、地域の情報に関するパスファインダーであるとか、

あるいは地域の情報のデータベースとか、そういうことも考えていただきたいと思いました。加えて、地域資料と言うと、どうしても郷土史のようなイメージになってしまいがちですが、それだけではなくて、現在のいろいろな情報、この地域のことについては、この図書館に聞けばわかるというような、そういうところであってほしいと思いました。

それから、もう一点。これは、練馬区立図書館全体の話になるのかもしれませんが、ソーシャルネットワーク、SNSの活用とか、そういった新しいこともやっていく必要があると思います。それを通して、実際に、図書館に人が来たり、出会ったり、交流するということが起こり得ると思うので、そのようなことも今後は考えていただきたいと思いました。

図書館 ありがとうございます。時間は過ぎていますが、ご発言されていない方で、何か感想でもあれば、いかがでしょうか。

利用者 館長からお話しいただいた事業案は、どれもすばらしいと思っています。できたら、高齢者の訪問とかが実現できたらいいのではないかと思います。

個人的なことなのですが、資料を検索して、練馬区にないものを他から取り寄せる方法というのがわかりません。今のシステムではできないと思うのですが、練馬区にないものはパソコンとかでできるといいと思います。

図書館 区に所蔵がない本については、電話やカウンターでご相談いただければ、他の自治体などから取り寄せることが可能です。

図書館 ありがとうございます。本日皆様からいただきましたご意見は、今後の石神井図書館の事業運営に生かしてまいりたいと思います。

7 その他

図書館 それでは、次第の7番「その他」に移ります。これは、ご案内になります。今回の懇談会の内容につきましては、後日、図書館のホームページにアップいたします。

続いて、読書期間中の事業案内ですが、既に定員に達したため締め切っておりますが、11月3日に石神井にお住まいの作家、新井素子さんを招いての講演会があります。そのほか、おすすめPOP展やテーマ展示などを行っておりますので、帰りがけにぜひごらんいただければと思います。

それでは、以上をもちまして、平成30年度石神井図書館利用者と館長との懇談会を終了いたします。本日は、お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございました。